

裸眼3D Liveの実証実験

2011
5/9 会場

URCF立体映像伝送作業班など 「VISION JAPAN」で



「VISION JAPAN 2011」のエフェーシステムエンジニアリングのブース

URCF立体映像伝送作業班（NHKメディアテクノロジー、東芝、エフェーシステムエンジニアリング）とOBN協会（高速光空間通信網推進協議会）は4月20～22日、パシフィコ横浜で開催された「VISION Japan 2011」で、3Dハイビジョン（HD）カメラ映像をインターネット光無線のIPネットワークを使って世

界初の裸眼（メガネなし）3D Liveの実証実験を実施した。

従来は、3D医療コンテンツをブルーレイプレイヤーから3Dモニターに表示し、偏光メガネ、あるいはアクティブシャッターメガネで視聴していたが、昨年12月にこの3D医療コンテンツを、グラスレス3Dテレビに表示しメガネなしの「人に優しい3D」映像表示として成功している。

これをもとに今回の実証実験は、会場内に3Dハイビジョンカメラを設置し、撮影された3D映像をインターネット光無線（キャン

プーム）で伝送、グラスレス3Dテレビ（II方式のグラスレス3Dレグザ）にLiveで裸眼3D表示した。

実証実験の実施場所は、パシフィコ横浜「エフェーシステムエンジニアリングブース」（L5）、「OBN協会」（L6）ブース。ブルーレイプレイヤーによる3Dハイビジョン医療コンテンツの各種3DTVへの展示も実施した。「人にやさしい3D」裸眼表示を多くの人に見てもらい、3Dコンテンツの製作技術、伝送技術・3D表示技術の実証実験が目的。